

1 本年度の重点教育目標

市函ディプロマポリシー（市函 DP）を踏まえ、生涯にわたって主体的に学び続けるための「基礎力」や、より良い答えや解を導き出す「思考力」を身に付け、変化する社会に対応できる資質・能力を育成する。

2 本年度の取組の重点

(1)豊かな感性や人間性を育み、多様な人々と協働し、主体的に社会の発展に寄与しようとする意欲や態度を育成する。(2)将来の社会生活に必要な規範意識を身に付けるとともに、健康を保持し、体力を養うための自己管理能力を育成する ④ふるさと函館や道南の歴史や文化等への愛着や誇りを強く抱きながら、世界的視野で地域を考え、行動できる「実践力」を身に付けたグローバルな人材を育成する。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
学校経営	生徒の実態や保護者、地域社会の願いを踏まえた教育目標になっている。	a	生徒や保護者へ市函 DP の自己評価を実施する。	A	A	教育目標や指導方針は保護者・地域にも周知され十分説明がなされている。今後も積極的に保護者・地域の意見の吸い上げ、学校運営に反映させていく真摯な姿勢が引き続き求められる。
	教職員のサービスが適切に保持されている。	a	サービスに関する事者意識を高め、職員間の親和性を深める。	A	A	
教育課程 学習指導	単位制の趣旨を生かし、進路実現に結びつく教育課程が編成・実施されている。	b	新学習指導要領の実施を前に、学習指導の充実に向け、グランドデザインの見直しを図る。	B	B	市函の単位制の在り方について、全教員が理解を深め、学習指導の効果を高めることが大事となる。単位制の理想と現実の差異を埋めていく努力により、学校のさらなる魅力化につなげて欲しい。
	わかりやすい授業を行い、自ら学ぶ意欲を高めるなど教科指導の工夫に努めている。	b	生徒個々の学びの状況をよく把握し、内発的動機付けを高める評価方法を充実させる。	B	B	
生徒指導	校内外における生徒の実態把握に努め家庭・地域社会・関係機関との連携の上、一人ひとりに対応した指導が行われている。	b	一人ひとりの生徒の特性や状況をよく理解し、自己肯定感・自己有用感が高められるような研修の実施を図る。	A	A	一貫して生徒の自主性・自立の精神を育てる指導がされており、生徒自身の自覚の度合いも高い。PTAを始め、保護者・地域が積極的に学校活動に関与する風土があり、結果、地域との連携につながっている。
	交通安全指導が適切に行われている。	b	生徒が主体となった交通安全に係る啓蒙活動を充実させる。	A	A	
進路指導	総合的な探究の時間などを通じ、自己の生き方を考える姿勢を養い、夢に向かって挑戦する志を涵養する。	a	課題研究論文作成や地域探究学習が、自らのキャリア形成に直結するよう、教科横断的に俯瞰する視点を持たせる。	A	A	三年間を見通した進路指導の全体像について、保護者に対するガイダンス機能が十分効果をあげていない指摘もある。本校が継続して取り組んでいるキャリア教育や育てたい資質・能力（市函 DP）についての周知を充実させることが必要。
	進路選択のためのガイダンスが効果的に機能している。	b	3年間を見通したガイダンス計画を通じ、系統的・継続的な指導をより一層充実させる。	B	B	
健康・安全指導	教育相談等を通して生徒の抱える悩み等に適切に対処している。	a	不登校傾向にある生徒やその保護者への対応について、研修を深める。	A	A	様々な機会を通じ個々の生徒理解が充実している。必要に応じて適宜面談やカウンセリングが行われており、生徒と教諭の信頼関係構築も良好である。
特別活動	生徒会行事、部活動等に全教職員の協力が得られ活性化されている。	b	自分たちの活動によって何かを変え社会をよりよくする実感を持つことができる活動になるようを促す。	A	A	コロナ禍の中、各生徒会行事の企画運営は生徒主導でなされ、どれも創造的な内容で実施されている。
地域との連携	保護者や地域からの意見を積極的に聴取し学校改善に役立っている。	b	保護者・地域から広く意見を聴取し迅速に学校運営に反映させる。	B	B	地域との連携については、「函館学」を基本としてよく頑張っている。
	「函館学」を通して、生徒に郷土を愛する気持ちを養っている。	a	コミュニティスクールの制度を学校課題と結びつける。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。